

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204	
法人名	有限会社福祉サポート仙台東	
事業所名	グループホーム憩いの園 ユニット:1F	
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3-31	
自己評価作成日	平成30年11月2日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ	
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階	
訪問調査日	平成30年12月5日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の「笑顔あふれる家」「あなたがあなたらしく過ごせる家」「安心できるひだまりのような家」に基づいて、ご利用者に充実した暮らしを提供できるよう努めております。生活の役割の中で、ご利用者ができることを探し、職員と一緒に食事の準備をしたり、買物のお手伝いをさせていただいております。季節ごとに行事を開催しており、恒例となりました憩いの園秋祭りでは地域住民の方、近隣保育園等をご招待し毎年楽しみにしているとお声もいただいております。  
医療体制としては訪問看護ステーションと提携し、週に一度の健康管理訪問と24時間の医療相談・訪問の体制を整え、健康面でもご利用者に安心していただけるよう支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広瀬川に近く井戸浜街道沿いの住宅街にある、開所4年目の事業所である。同じ敷地内に同法人の住宅型有料老人ホームやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所がある。1ヶ所の調理場で調理し、各事業所に配食したり、人事交流を行う等、同敷地内という利点を生かした事業運営をしている。理念を全職員が理解するように努め、利用者や家族が第二の我が家として安心して笑顔で暮らせるように、実践に活かし支援している。ユニットごとに「うがいや手洗い」「外出や散歩」等、週間目標を決めて実践している。週1回、訪問看護師による健康管理や内科や歯科の訪問診療等、24時間の医療連携体制も整えている。同敷地内に住んでいる法人代表は、地域との繋がりを重視し、民生委員を引き受けている。職員の教育・研修参加や、新たな資格取得に向けて支援し、休暇取得を推進する等、働きやすい職場作りに向けて努力している様子がうかがえた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

mo		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
	57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの園）「ユニット名 1F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで理念を皆で読み上げ、共有を図っております。また、管理者から理念に基づく支援のあり方についてミーティングを通して職員に伝えております。	「笑顔あふれる家、あなたがあなたらしく過ごせる家、安心できるひだまりのような家」の理念を掲げ、毎月のミーティングで唱和し確認している。利用者が安心して過ごせるケアに努めている。ユニットごとに「うがいや手洗い」「外出や散歩」等、週間目標を決めて、理念を実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度から開始されたほのぼの沖野みまもりマップに登録させていただいております。包括主催の地域ケア会議にも参加させていただき、地域の方との意見交換もしております。	町内会に法人として加入している。町内の盆踊りやお茶っご会に参加したり、「ほのぼの沖野みまもりマップ」に掲載される等、地域住民や商店街と協力連携している。事業所の秋祭りには、地域住民や保育園児が参加し、楽器演奏や民謡のボランティアが参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症利用者の事例報告し、症状に対しての具体的支援方法についてお話させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た疑問についてはその場でお答えし、意見・要望に関しては事業所で検討し、サービスに活かすよう努めております。	運営推進会議は職員、町内会長・会計、民生委員、地域包括職員が参加し、隔月開催している。地域における高齢者の状況について地域包括職員からの情報提供や「事業所をもっと地域へアピールしたら」との意見等が出され、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村開催の研修には毎回参加し、必要に応じ疑問・質問をし、指導をいただいております。	区役所保護課から助言を受けたり、相談をする等、都度、連絡を取り合っている。ケアマネ研修をはじめ、市町村で開催される研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月に一度の身体拘束研修を行い、全職員に対し、身体拘束廃止についての理解を深められるよう指導しております。	3ヶ月に1回、ミーティングを開催し、管理者がグループホーム内の具体的な事例を出しながら身体拘束廃止への研修を行い、分析・評価、そして全職員へ周知している。そのミーティングを、身体拘束委員会と位置づけている。日常的には、ケアを振り返り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関の施錠は、19時～7時までとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修では、虐待してしまった側の心理状況の事例などを交え、自身のケアについて振り返る機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご利用者の後見人と電話や書面にて意見のやり取りをしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けております。不明な意見に対してもわかりやすく伝えられるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時にご利用者の状況を話しながら意見交換が行えるよう、話しやすい雰囲気作りを心掛けております。	家族の意見や要望等が反映し易いように、「御意見箱」の設置や面会時・電話等で情報を提供し、要望を聞いている。今年から毎月「憩いの園」便りを発行し、利用者の写真を添えて様子を伝えている。	事業所以外に身近な相談機関として、第三者委員の委嘱の検討を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に対し管理者との個人面談を開き、仕事における様々な悩み・不安の聞き取りを行いました。また、日々の業務の中でも管理者と職員のコミュニケーションを大事にしております。	月1回の全体ミーティングや、月1～2回の管理者と各ユニットリーダー会議、2年に1回の個人面談等の取り組みの中で、職員の意見や悩みを聞いている。勤務時の希望や利用者への食事介助の方法等への提案あり、業務改善に反映したことで職員のやる気に繋がった。法人としても事故対策を行い、感染症委員会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、職責・職務内容・手当等を明確にすることで、各自が目標を持って働ける環境を整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には自分が受講したい研修を年に1回(就労日に費用会社負担で)受講できる制度や資格取得においても優遇制度を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護初級者、中級者、役職者等それぞれに合わせた研修や勉強会に参加してもらい、情報交換等を通じて、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、新しいところでの生活に多くの不安があるということに十分配慮し、ご利用者が安心できるということは何かを職員が真剣に考えることから信頼関係作りに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際にサービスに対する疑問や不安などをしっかり傾聴し要望反映に努め、その後のより良い信頼関係を構築できるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にご本人・ご家族の必要としているサービスについてじっくり検討し、状況に応じ弊社の他のサービス事業所への利用相談も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者には生活の役割を分担して行ってもらい、共に暮らしを支え合える関係の構築に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には家族としての思いを傾聴するようにしております。しかし、家族会のような意見交換の場は設けたことがなく、今後の課題となっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の住まいで近所付き合いがあった方との電話や面会時には、職員からも近況報告等のお話をさせていただき、ご本人にとっても馴染みの方にとっても安心できる関係継続の支援をしております、	馴染みの美容室やお正月・お盆に墓参りに家族と一緒に出かけられるように、支援している。近所の人や友人等が面会に来て、居室でお茶を飲んだり、和やかに過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員は記録等を用い把握に努め、どういった環境がそれぞれの利用者同士の関わり合いに適しているか随時検討しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、各種相談は受け付けております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話やご家族から意向について聞き取り、困難な場合は以前の暮らしぶりから本人本位となるよう努めております。	入居時に、これまでの暮らし方や要望等を聞き、申し送りノートや介護記録に記入し、職員間で情報共有を図っている。会話の困難な人には、筆談用のカードを作成する等、工夫しながらコミュニケーションが取れるよう努めている。1Fのユニットでは、長年インコを飼っていた人に「インコのぬいぐるみ」を用意し喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・以前のケアマネ等各種関係者から情報をいただき、それまでの生活歴の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者に担当職員を設け、現状把握をしております。把握した情報をもとにサービスへ繋げております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者・管理者で介護計画について話し合い、担当者会議にてご本人・ご家族に確認をしております。	介護記録や申し送りノートに記載した、利用者の情報や本人・家族から聞いた意見・要望をもとにカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。3ヶ月に1回、担当者会議を開催し計画を見直している。作成した介護計画を、面会時に家族に渡したり、送付し、確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として、介護記録・バイタル表・排便管理表・通院記録・看護記録等多様な記録にて状況把握し、また、職員同士の情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来サービス以外の要望があった場合、社内でも検討させていただき、状況に応じ意向に反映できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りにご利用者と参加させていただき、普段事業所で行っている行事とは違った楽しみが持てるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの主治医に継続して診てもらうことを優先し、必要に応じ、往診医の紹介も行っております。	本人の希望で、ほとんどの利用者は往診医がかかりつけ医となっている。その他の受診の場合は、基本的に家族が付き添う事になっているが、職員が同行する場合もある。訪問看護師とも協力し連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録や電話にてご利用者の健康状態について報告し、指示をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、実態調査やサマリーを通し病院と連携を取り、ご利用者が退院後も安心して暮らしていけるよう支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、主治医の指示のもとご本人・ご家族・事業所で相談を行っております。それぞれがどのようなことを望むか、どのような支援ができるかを十分に話し合う機会を設け取り組んでおります。	「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者、家族に説明している。複数、看取りを経験している。往診医や訪問看護師と24時間連携が取れる体制が整備され、終末期にはかかりつけ医の指示の下、チームで支援している。訪問看護師がグリーフケアに関しての資料を用意し、職員へ配布した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故対策委員会を設置しており、各事業所の委員を中心に事故発生時の対応について職員に報告しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際に災害時の避難誘導について確認をしております。	火災、風水害、地震対応マニュアルが作成されている。年2回、避難訓練(2月・7月)を計画している。婦人防火クラブに所属している職員の協力を得て、7月に夜間想定訓練を行った。災害時の避難誘導を重点に町内会や法人内事業所の協力も得て実施する予定もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング内の研修にて法人の倫理規定を用い、尊厳やプライバシーについて職員に考える機会を設け、ご利用者への配慮・サービスの向上に努めております。	年1回、接遇やプライバシー保護について、具体的な事例を挙げて、振り返りも含め、研修を行っている。利用者の呼び名は基本的には「〇〇さん」と苗字で呼ぶ事を基本にしている。「叔母ちゃん」と呼ばれることを希望する人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から「何かやることない？」と言われた時は、家事手伝いなのか趣味活動なのか聞き取り、希望に沿って意思を反映させております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムを尊重し、起床・就寝・食事の時間を作っております。事業所側の都合にならぬよう配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服をご自身で選べる方には自己決定できるように支援し、難しい方には本人本位となるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備はご利用者の状況に応じ、一緒に行っております。また、後片付けもご利用者と分担して行っております。	同法人が運営する他事業所では、調理を業務委託しており、その業者の栄養士がたてたメニューを参考に、同じ敷地内にある調理場で、グループホーム、デイサービス、住宅型有料老人ホームの分を一緒に調理し、配食されてくる。盛り付けや後片付けは、職員と一緒にしている。行事食や外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、健康状態の把握に努め、その情報を主治医・訪問看護師とも情報共有を行い、その時に合った栄養バランスが摂れるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご利用者の状況に合わせて介助をさせていただき口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、それぞれの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っております。	利用者の状態や排泄パターンを把握し、時間や様子を見てトイレ誘導をする等、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は、パッドやオムツ等を使用している。尊厳を損なわないような対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録とは別に排便管理表を使用し排便間隔の把握に努めております。便秘にならぬよう食事・水分量にも気を配っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は予め設定されていますが、ご利用者の体調や気分に合わせて、常に変更できるような仕組みをとっています。	週2回、午前中の中入浴を基本としている。入浴前にバイタルチェックを行い、体調管理をし、体調や気分に合わせて支援している。脱衣所や浴室の温度差がないよう、配慮されている。入浴拒否の場合は、声かけや担当者を替えたり工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯の時間は設定しておらず、それぞれのご利用者が安眠していただける環境整備に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、各職員が把握できるようにしております。また、薬についての疑問は主治医・看護師・薬剤師に随時確認を取るようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活では家事を役割分担し、楽しみ・気分転換には外出・行事を企画し、楽しみのある暮らしの提供に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的な外出支援を目指しており、希望があればそれに応えられるよう、日頃のご利用者とのコミュニケーションも大事にしております。	年間行事計画があり、4月は花見に名取市役所へ出かけている。日常的には、車いすの人も一緒に駄菓子屋へ行く等、楽しんでいる。利用者の希望にそって、近所のスーパーやフードコートへ買い物に行く等、個別の外出支援も行っている。家族の協力で、外食や墓参りに出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理をご自身でされている方はおりませんが、事業所の買物のお手伝いをさせていただき、ご利用者の能力に応じ支払いのお手伝いをさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった場合は、ご本人が大切な時間を過ごせるよう配慮しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には時季ごとに装飾を替え、季節感を感じられる工夫をしております。また、それが、ご利用者の不快や混乱を引き起こさぬよう配慮しております。	食堂は窓が大きくて明るく陽当りも良い。床暖房で加湿器や空気清浄器を設置している。共用空間にはクリスマスツリーが飾ってあったり、行事の写真が貼ってある。ベランダも広く、プランターを置いて野菜作りをしている。各部屋のドアにはカーテンがついた小窓がついており、利用者の様子がうかがえるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の座席配置にはとても気を配っており、ご利用者同士がそれぞれのペースで過ごせるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境においては、ご本人・ご家族と相談し、自宅で使っていたものを持参していただくなどして安心できるよう支援しております。	入り口の表札について利用者から希望を聞き、名前や写真を貼る場所等を決め、掲げている。居室にはベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられており、各居室は綺麗に整理されて広く感じられた。孫の写真を飾ったり、使い慣れたタンス、テレビ、ぬいぐるみ等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の能力に合わせ、表示や目印をつけたり、色・配置などでわかりやすくすることで、できるだけ自立を促すよう支援しております。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園 ユニット:2F		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3-31		
自己評価作成日	平成30年11月2日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年12月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の「笑顔あふれる家」「あなたがあなたらしく過ごせる家」「安心できるひだまりのような家」に基づいて、ご利用者に充実した暮らしを提供できるよう努めております。生活の役割の中で、ご利用者ができることを探し、職員と一緒に食事の準備をしたり、買物のお手伝いをさせていただいております。季節ごとに行事を開催しており、恒例となりました憩いの園秋祭りでは地域住民の方、近隣保育園等をご招待し毎年楽しみにしているとお声もいただいております。医療体制としては訪問看護ステーションと提携し、週に一度の健康管理訪問と24時間の医療相談・訪問の体制を整え、健康面でもご利用者に安心していただけるよう支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広瀬川に近く井戸浜街道沿いの住宅街にある、開所4年目の事業所である。同じ敷地内に同法人の住宅型有料老人ホームやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所がある。1ヶ所の調理場で調理し、各事業所に配食したり、人事交流を行う等、同敷地内という利点を生かした事業運営をしている。理念を全職員が理解するように努め、利用者や家族が第二の我が家として安心して笑顔で暮らせるように、実践に活かし支援している。ユニットごとに「うがいや手洗い」「外出や散歩」等、週間目標を決めて実践している。週1回、訪問看護師による健康管理や内科や歯科の訪問診療等、24時間の医療連携体制も整えている。同敷地内に住んでいる法人代表は、地域との繋がりを重視し、民生委員を引き受けている。職員の教育・研修参加や、新たな資格取得に向けて支援し、休暇取得を推進する等、働きやすい職場作りに向けて努力している様子がうかがえた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの園）「ユニット名 2F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで理念を皆で読み上げ、共有を図っております。また、管理者から理念に基づく支援のあり方についてミーティングを通して職員に伝えております。	「笑顔あふれる家、あなたがあなたらしく過ごせる家、安心できるひだまりのような家」の理念を掲げ、毎月のミーティングで唱和し確認している。利用者が安心して過ごせるケアに努めている。ユニットごとに「うがいや手洗い」「外出や散歩」等、週間目標を決めて、理念を実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度から開始されたほのぼの沖野みまもりマップに登録させていただいております。包括主催の地域ケア会議にも参加させていただき、地域の方との意見交換もしております。	町内会に法人として加入している。町内の盆踊りやお茶っこ会に参加したり、「ほのぼの沖野みまもりマップ」に掲載される等、地域住民や商店街と協力連携している。事業所の秋祭りには、地域住民や保育園児が参加し、楽器演奏や民謡のボランティアが参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症利用者の事例報告し、症状に対しての具体的支援方法についてお話をさせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た疑問についてはその場でお答えし、意見・要望に関しては事業所で検討し、サービスに活かすよう努めております。	運営推進会議は職員、町内会長・会計、民生委員、地域包括職員が参加し、隔月開催している。地域における高齢者の状況について地域包括職員からの情報提供や「事業所をもっと地域へアピールしたら」との意見等が出され、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村開催の研修には毎回参加し、必要に応じ疑問・質問をし、指導をいただいております。	区役所保護課から助言を受けたり、相談をする等、都度、連絡を取り合っている。ケアマネ研修をはじめ、市町村で開催される研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月に一度の身体拘束研修を行い、全職員に対し、身体拘束廃止についての理解を深められるよう指導しております。	3ヶ月に1回、ミーティングを開催し、管理者がグループホーム内の具体的な事例を出しながら身体拘束廃止への研修を行い、分析・評価、そして全職員へ周知している。そのミーティングを、身体拘束委員会と位置づけている。日常的には、ケアを振り返り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関の施錠は、19時～7時までとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修では、虐待してしまった側の心理状況の事例などを交え、自身のケアについて振り返る機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご利用者の後見人と電話や書面にて意見のやり取りをしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けております。不明な意見に対してもわかりやすく伝えられるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時にご利用者の状況を話しながら意見交換が行えるよう、話しやすい雰囲気作りを心掛けております。	家族の意見や要望等が反映し易いように、「御意見箱」の設置や面会時・電話等で情報を提供し、要望を聞いている。今年から毎月「憩いの園」便りを発行し、利用者の写真を添えて様子を伝えている。	事業所以外に身近な相談機関として、第三者委員の委嘱の検討を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に対し管理者との個人面談を開き、仕事における様々な悩み・不安の聞き取りを行いました。また、日々の業務の中でも管理者と職員のコミュニケーションを大事にしております。	月1回の全体ミーティングや、月1～2回の管理者と各ユニットリーダー会議、2年に1回の個人面談等の取り組みの中で、職員の意見や悩みを聞いている。勤務時の希望や利用者への食事介助の方法等への提案あり、業務改善に反映したことで職員のやる気に繋がった。法人としても事故対策を行い、感染症委員会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、職責・職務内容・手当等を明確にすることで、各自が目標を持って働ける環境を整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には自分が受講したい研修を年に1回(就労日に費用会社負担で)受講できる制度や資格取得においても優遇制度を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護初級者、中級者、役職者等それぞれに合わせた研修や勉強会に参加してもらい、情報交換等を通じて、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、新しいところでの生活に多くの不安があるということに十分配慮し、ご利用者が安心できるということは何かを職員が真剣に考えることから信頼関係作りに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際にサービスに対する疑問や不安などをしっかり傾聴し要望反映に努め、その後のより良い信頼関係を構築できるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にご本人・ご家族の必要としているサービスについてじっくり検討し、状況に応じ弊社の他のサービス事業所への利用相談も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者には生活の役割を分担して行ってもらい、共に暮らしを支え合える関係の構築に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には家族としての思いを傾聴するようしております。しかし、家族会のような意見交換の場は設けたことがなく、今後の課題となっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の住まいで近所付き合いがあった方との電話や面会時には、職員からも近況報告等のお話をさせていただき、ご本人にとっても馴染みの方にとっても安心できる関係継続の支援をしております、	馴染みの美容室やお正月・お盆に墓参りに家族と一緒に出かけられるように、支援している。近所の人や友人等が面会に来て、居室でお茶を飲んだり、和やかに過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員は記録等を用い把握に努め、どういった環境がそれぞれの利用者同士の関わり合いに適しているか随時検討しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、各種相談は受け付けております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話やご家族から意向について聞き取り、困難な場合は以前の暮らしぶりから本人本位となるよう努めております。	入居時に、これまでの暮らし方や要望等を聞き、申し送りノートや介護記録に記入し、職員間で情報共有を図っている。会話の困難な人には、筆談用のカードを作成する等、工夫しながらコミュニケーションが取れるよう努めている。1Fのユニットでは、長年インコを飼っていた人に「インコのぬいぐるみ」を用意し喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・以前のケアマネ等各種関係者から情報をいただき、それまでの生活歴の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者に担当職員を設け、現状把握をしております。把握した情報をもとにサービスへ繋げております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者・管理者で介護計画について話し合い、担当者会議にてご本人・ご家族に確認をしております。	介護記録や申し送りノートに記載した、利用者の情報や本人・家族から聞いた意見・要望をもとにカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。3ヶ月に1回、担当者会議を開催し計画を見直している。作成した介護計画を、面会時に家族に渡したり、送付し、確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として、介護記録・バイタル表・排便管理表・通院記録・看護記録等多様な記録にて状況把握し、また、職員同士の情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来サービス以外の要望があった場合、社内で検討させていただき、状況に応じ意向に反映できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りにご利用者と参加させていただき、普段事業所で行っている行事とは違った楽しみが持てるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの主治医に継続して診てもらうことを優先し、必要に応じ、往診医の紹介も行っております。	本人の希望で、ほとんどの利用者は往診医がかかりつけ医となっている。その他の受診の場合は、基本的に家族が付き添う事になっているが、職員が同行する場合もある。訪問看護師とも協力し連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録や電話にてご利用者の健康状態について報告し、指示をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、実態調査やサマリーを通し病院と連携を取り、ご利用者が退院後も安心して暮らしていけるよう支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、主治医の指示のもとご本人・ご家族・事業所で相談を行っております。それぞれがどのようなことを望むか、どのような支援ができるかを十分に話し合う機会を設け取り組んでおります。	「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者、家族に説明している。複数、看取りを経験している。往診医や訪問看護師と24時間連携が取れる体制が整備され、終末期にはかかりつけ医の指示の下、チームで支援している。訪問看護師がグリーフケアに関しての資料を用意し、職員へ配布した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故対策委員会を設置しており、各事業所の委員を中心に事故発生時の対応について職員に報告しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際に災害時の避難誘導について確認をしております。	火災、風水害、地震対応マニュアルが作成されている。年2回、避難訓練(2月・7月)を計画している。婦人防火クラブに所属している職員の協力を得て、7月に夜間想定訓練を行った。災害時の避難誘導を重点に町内会や法人内事業所の協力も得て実施する予定もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング内の研修にて法人の倫理規定を用い、尊厳やプライバシーについて職員に考える機会を設け、ご利用者への配慮・サービスの向上に努めております。	年1回、接遇やプライバシー保護について、具体的な事例を挙げて、振り返りも含め、研修を行っている。利用者の呼び名は基本的には「〇〇さん」と苗字で呼ぶ事を基本としている。「叔母ちゃん」と呼ばれることを希望する人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が好きなのを食べたいという希望を反映し、デパートのフードコート等で自分で選んで食べてもらうという企画も行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムを尊重し、起床・就寝・食事の時間を作っております。事業所側の都合にならぬよう配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服をご自身で選べる方には自己決定できるように支援し、難しい方には本人本位となるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備はご利用者の状況に応じ、一緒に行っております。また、後片付けもご利用者と分担して行っております。	同法人が運営する他事業所では、調理を業務委託しており、その業者の栄養士がたてたメニューを参考に、同じ敷地内にある調理場で、グループホーム、デイサービス、住宅型有料老人ホームの分を一緒に調理し、配食されてくる。盛り付けや後片付けは、職員と一緒にしている。行事食や外食も楽しんでい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、健康状態の把握に努め、その情報を主治医・訪問看護師とも情報共有を行い、その時に合った栄養バランスが摂れるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご利用者の状況に合わせ介助をさせていただき口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、それぞれの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っております。	利用者の状態や排泄パターンを把握し、時間や様子を見てトイレ誘導をする等、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は、パッドやオムツ等を使用している。尊厳を損なわないような対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録とは別に排便管理表を使用し排便間隔の把握に努めております。便秘にならぬよう食事・水分量にも気を配っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は予め設定されていますが、ご利用者の体調や気分に合わせて、常に変更できるような仕組みをとっています。	週2回、午前中の中の入浴を基本としている。入浴前にバイタルチェックを行い、体調管理をし、体調や気分に合わせて支援している。脱衣所や浴室の温度差がないよう、配慮されている。入浴拒否の場合は、声かけや担当者を替えたり工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯の時間は設定しておらず、それぞれのご利用者が安眠していただける環境整備に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、各職員が把握できるようにしております。また、薬についての疑問は主治医・看護師・薬剤師に随時確認を取るようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活では家事を役割分担し、楽しみ・気分転換には外出・行事を企画し、楽しみのある暮らしの提供に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的な外出支援を目指しており、希望があればそれに応えられるよう、日頃のご利用者とのコミュニケーションも大事にしております。	年間行事計画があり、4月は花見に名取市役所へ出かけている。日常的には、車いすの人も一緒に駄菓子屋へ行く等、楽しんでいる。利用者の希望にそって、近所のスーパーやフードコートへ買い物に行く等、個別の外出支援も行っている。家族の協力で、外食や墓参りに出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理をご自身でされている方はおりませんが、事業所の買物のお手伝いをさせていただき、ご利用者の能力に応じ支払いのお手伝いをさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった場合は、ご本人が大切な時間を過ごせるよう配慮しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には時季ごとに装飾を替え、季節感を感じられる工夫をしております。また、それが、ご利用者の不快や混乱を引き起こさぬよう配慮しております。	食堂は窓が大きくて明るく陽当たりも良い。床暖房で加湿器や空気清浄器を設置している。共用空間にはクリスマスツリーが飾ってあったり、行事の写真が貼ってある。ベランダも広く、プランターを置いて野菜作りをしている。各部屋のドアにはカーテンがついた小窓がついており、利用者の様子がうかがえるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の座席配置にはとても気を配っており、ご利用者同士がそれぞれのペースで過ごせるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境においては、ご本人・ご家族と相談し、自宅で使っていたものを持参していただくなどして安心できるよう支援しております。	入り口の表札について利用者から希望を聞き、名前や写真を貼る場所等を決め、掲げている。居室にはベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられており、各居室は綺麗に整理されて広く感じられた。孫の写真を飾ったり、使い慣れたタンス、テレビ、ぬいぐるみ等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の能力に合わせ、表示や目印をつけたり、色・配置などでわかりやすくすることで、できるだけ自立を促すよう支援しております。		